

単
元
名

本で調べて、報告する文章を書き、「私の研究ポスター」を作ろう

教科書出版社名（ 光村図書 ）

○ 小学校（ 4 ）年 教科等（ 国語 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

- ・必要な事柄を調べ、分かったことを明確にして文章を書くことができる。
- ・書いたものを読み返し、必要に応じて修正することができる。
- ・表現したり理解したりするうえで必要な語句について辞書を利用して調べることができる。

○ 学校図書館活用のポイント

- ・単元の初めに、学校図書館で司書教諭がブックトークを行い、調べ学習への意欲を高めるとともに、自分が疑問に思ったことの問題を探す手がかりとなるようにする。
- ・公共図書館と連携し、団体貸し出しを活用する。

○ 学習の展開（全12時間）

第1次	<ul style="list-style-type: none">・「私の研究ポスター」を作ったあと、みんなで交流する活動があることを知る。・教員の「私の研究ポスター」の紹介をきく。・司書教諭によるブックトークを聞く。・学習計画を立てる。・ふりかえりを行う。
第2次	<ul style="list-style-type: none">・興味のある分野について問いを広げる（イメージマップ活用）。・調べたいことを本や百科事典、国語辞典から探し、報告書に書くことを集める。本文の引用、ページ数、資料名、筆者、出版社をメモする。・報告書の書き方を知る。自分の報告書の構成を考える。・報告書の構成に沿ってまとめごとに下書きをまとめる。
第3次	<ul style="list-style-type: none">・友だちと下書きを交流する。・友だちの意見を生かして「私の研究ポスター」を仕上げる。・「私の研究ポスター」を読み合い、感想を伝え合う。学習を振り返りまとめる。



【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	<ul style="list-style-type: none">・公共図書館の団体貸し出しを利用したことで、教科書で例示された問いやテーマに対する答えを得やすかった。また身近な疑問に答えてくれる本を用意したことで、イメージマップだけでは問いを考えることが難しい児童の発想の助けになった。・複数の図書を活用することで、児童の問いが連鎖的に繋がるポスターに仕上がっていた。・百科事典、国語辞典を活用して、定義や意味を調べることで、児童の理解が深まったり新しい問いを見つける助けになったりした。・実際に研究ポスターを作り、貼りだすことで、児童が参考文献のリストを載せる意味と大切さを考える機会になった。
② 課題	<ul style="list-style-type: none">・学校図書館と団体貸し出しの図書を活用したが、本だけでは答えの見つからない問いを考える児童もいた。公共図書館の活用も促したが、より幅広い蔵書の必要性を感じた。・一つの問いの答えから、新しい問いへと繋げて調べるのが難しい児童もいた。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

<ul style="list-style-type: none">・単元の初めのブックトークでは、教科書に例示されたテーマについて調べたいなら、どの分類番号を調べると本を見つけることができそうかと考えさせた。分類番号に慣れ親しんでいる児童が多く、自然やスポーツ、食べ物など大体の児童は場所を把握していたが、まだ自信のない児童もいたため、積み重ねが必要だと感じた。・本の題名で問いに関係ありそうなものもあれば、一冊の本の中の一部に関係していることが記載されていることもあるため、塩→おむすび、など連想しながら本を探すとより多くの情報が得られる可能性があることや、イメージマップで出てきたキーワードも本探しの助けになることを伝えた。・教科書では、報告書を作るとなっていたところを、「私の研究ポスター」として、清書の際には文章構成のまとめりごとに紙に書き、一枚の画用紙にレイアウトさせた。児童の作ってみたいという気持ちがポスターにしたことで高まったと感じる。
